

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字345番地15		
自己評価作成日	令和3年1月30日	評価結果確定日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念のほか、「それぞれの方が長生きしてよかつたと思える場所・ご家族が安心していただける場所・職員が笑顔と真心をもって接すること」をテーマに掲げ、支援に取り組んでいます。職員の意識向上とサービス精神の涵養を設定しており、ご家族や医療、行政と連携しながら、利用者様が安心してその人らしい生活が実現できるよう暮らしの支援を目指しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で外部との接触が厳しくはありますが、小学校との交流も10年以上続き、小学校の恒例年間行事になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関事務室前に掲示した理念を具現化するために、運営者は言葉遣いや人としての尊敬の念について日頃から説諭し、全職員で創り上げた年次重点テーマに取り組んでいる。下肢筋力の低下を防止するために長い廊下を歩行器を使った歩行訓練や広い敷地内の散歩が日課となり、食べることを楽しみにしてもらいたいと、年越し蕎麦やおせちなどの季節料理やご本人の希望の誕生日メニューが食卓に上っている。コロナ禍の中、小学校からリコーダー演奏のビデオレターやお便りを手にした4年生の個別写真が貼られたお便りが届き、恒例行事が継続している。玄関に年末や年始の笑顔満載の入居者の写真を掲示し、荷物のやり取りをする際に家族に暮らしぶりを報告し、感染防止対策へのご理解やご協力をお願いするなど、地域密着型サービスとして年次テーマの「場づくり」に邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様一人ひとりが自分らしい生活を送れるように暮らしの支援を行う理念のほか、年次重点テーマを掲げており、毎朝唱和することで職員に周知し実践につなげている。	玄関事務室前に掲示した理念を具現化するために、全職員で創り上げた年次重点テーマを掲げている。入居者への尊敬の念を持ち笑顔で、其々の入居者らしい生活支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナにより外出や行事参加は控えているが、地域小学校との交流は継続している。七夕交流会はできなかったが、児童からのビデオレターや手紙を通じたやりとりを行っている。	地域小学校からリコーダー演奏のビデオレターやお便りを手にした4年生の個別写真が貼られたお便りが届き、リコーダーの演奏に入居者から「すごいね」との声が上がった。コロナ禍の中、小学校から恒例行事として問い合わせを受けたことを喜び、今後も交流を継続する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主導の予防教室が中止されているため、来年度の町支援単独事業等を受託できれば行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、参加された方からの意見や気づきは、改善や工夫を行い運営に生かしている。	令和2年度は9月まで運営推進会議を開催し、中止した期間は書面にて報告している。感染対策や家族の面会についての質問には取り組みを報告し、会議録は事務室前で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との質問・相談が頻繁に行われており、訪問や要請もある。アドバイスや協力を得やすい関係性づくりに努めている。	地域包括支援センター職員から感染症や転倒、誤嚥などについてアドバイスを受けたり、成年後見制度の活用を相談するなど、日頃から連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修で職員の指導を行い、理解を深めている。身体だけでなく言葉による拘束においても拘束につなげることがないよう職員間でケアに努めている。	日頃から身体拘束の具体的な内容を周知し、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。椅子を置いて座位を保持したり、声かけの言葉使いなどの事例を拘束について考える機会と捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通じて職員間で情報を共有し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて権利擁護の気持ちが浸透するようにしている。また、整備しているパンフレットで説明したり、相談できる行政窓口など紹介している。	随時、日常生活自立支援事業や成年後見制度を紹介できるように、パンフレットを整備している。地域包括支援センターに制度利用を相談した入居者もあるが、後見人を引き受ける親族が見つかり、利用には至らなかった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得いくまで十分に説明し、理解を得たうえで同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望はこちらからも出しやすい雰囲気でお尋ねし、責任者に伝達したうえで全体や個別で取り入れられるようにしている。	事務所前に年末や年始の笑顔満載の入居者の写真を掲示し、荷物のやり取りをする際に家族に暮らしぶりを報告している。家族からは面会に関する意見が多く、感染防止対策を説明し、ご理解やご協力をお願いしている。	家族の面会がままならない心情を察し、利用料請求時などにホームの取り組みや個別の暮らしぶりを書面で報告し、運営への理解や協力、意見の促しを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用して日々の気づきや小さなことでも職員全員が共有できるように確認を行っている。	職員が集まりやすい昼食後に話し合う機会を設けている。決定事項は申し送りノートで全職員に周知している。職員の提案で、居間の空気清浄機を購入予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場づくりを行っている。子育て中の職員には労働時間帯や曜日に配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格にこだわらず人間性で採用している。定年でも働く意欲のある方は継続採用も行っている。	ハローワークの求人が多く、30代～60代の男女の職員が勤務している。30代の管理者はイラストや壁紙作りに能力を發揮し、運営者や介護部長への報連相に努めている。密を避けるために、年間研修計画に沿ってビデオ学習会が多く、欠席者にはビデオの貸し出しをしている。希望のシフトも叶えられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて、人権教育を実施し、実践状況の把握に努めている。	保険者主催の人権研修に管理者が参加したり、ビデオによる人権研修を実施している。運営者は言葉遣いや人としての尊敬の念について、日頃から説諭している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアを把握し、ケア向上の実践に取り組んでいる。未経験の就業者には研修でマニュアルに従い自然に習熟度を上げられる取り組みを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域介護ネットワークが立ち上がるも新型コロナウイルスの感染予防のため交流参加は減っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じてご家族から情報収集を行い、生活の基盤づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じて、ご家族の立場や状況に耳を傾けながら理解を深め、話しやすいような投げかけを行いながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや面談を通して得られた情報をもとに、ニーズの見誤りがないように努めながら、多職種と連携を取りつつ本人の適切なサービスが何であるかを見極めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人間関係や相性に合わせた仲間分けや席決めなどでアットホームな関係を築いており、協力や支えあいで共に生活していく雰囲気ある環境づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限りの協力をお願いし、家族の関与を引き出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重しているが、新型コロナウイルスにより、友人の来訪や馴染みの場所への外出の支援が困難となっている。	感染防止のため玄関先で人数や時間を制限した面会をお願いしていたが、昨今の状況から面会を制限している。家族の同行で受診する入居者もあり、家族と過ごす時間になっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないよう職員が間に入り、共同レクリエーションや作業を通じて利用者同士の関係を築けるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取ったり、訪問するなどして安否確保に努めたり、年間カレンダーは毎年届けて関係が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じて表面的ではなく本意的な意向の把握に努め、生活の基盤づくりにつなげている。	基本シートやアセスメントシートを整備し、把握した家族構成や生活歴、病歴など踏まえ、意向や思いの把握に取り組んでいる。自力で歩行や移動ができるとの思い込みや暴言の対応に困惑することもある。	言動を良し悪しと評価するのではなく、背後にある思いを分析した共感的理解で、さらなる意向や思いの把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族、関係者からの聞き取りを通じて本人本位に行われている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を適切に分析し、個々に合わせた支援につなげている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの申し送りやご家族・関係者の情報や意見をもとに現状のニーズを把握し、最適の計画を作成実行している。	下肢筋力の低下を防止するために、職員の見守りを受けながら長い廊下を歩行器を使った歩行訓練が行われている。歩行訓練中に自室に飾っている入居当初の写真を見て、脊柱が曲がっていることを自覚し、姿勢を正す入居者もある。	起居動作や歩行状態、個々の意向を詳細にアセスメントし、職員の気付きなどを話し合う機会を設け、より現状に即した介護計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践を申し送りノートや個別記録などに記入し、情報共有しながら、実践や評価を行い介護計画の見直しに生かすように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身や環境にあった支援を提供できるよう外部サービスの利用を検討するなど柔軟に取り組む姿勢がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域・商店街の催事や小学校との企画もあったが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から実施が困難となっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得て、希望の医療機関への受診が行われており、事業所と医師との情報共有に努めている。	希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診もあり、適切な医療受診を支援している。眼科などの専門医療機関受診は家族に同行をお願いしている。昨今、熱発で受診し、感染予防対策で駐車場で診察を受け、解熱した入居者もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が日々の観察の中でとらえた情報や気づきを看護師に伝えて情報を共有し、適切な看護が受けられるように医療機関につなげている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連携を通じて治療の方針や早期退院に向けての話し合いやメンタルケアに取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時の段階で大まかな意向を把握し、その後の健康状態に応じてご家族や本人の希望に沿った方針を示している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、同意を得ている。現在まで看取りはなく、緊急時は医療機関に搬送している。運営者は、家族から看取りの希望があれば検討したいが、職員の研修が必須だと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて救命の知識習得や訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政区避難場所への誘導時において地域住民への要請をお願いしている。飲料水や食糧、簡易トイレなどを保管する備蓄庫を整備している。	日頃から地元消防団との協力関係を構築している。2月、8月の避難訓練では、全入居者を庭に誘導している。段差のある非常口はギャッジアップ式リフトを設置し、飲料水や食料、簡易トイレ、マスクや消毒薬などの感染予防グッズを備蓄している。	備蓄台帳の整備や入居者に関する持ち出し書面等の整備で、さらなる災害対策を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と接する際は尊重する姿勢で臨むようになっている。利用者の不満や怒りの興奮した言葉にも冷静に耳を傾け、人格を尊重した対応を行っている。	○〇さんと氏名で呼称しているが、家族の了解を得て愛称で呼称する入居者もある。運営者は入居者に対する尊敬の念を持つことや丁寧な声かけについて、機会ある毎に説諭している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思決定ができるような声かけや対応を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを示しているため、ある程度は施設の決まりに沿って行動しているが、利用者がこうしたいという希望はさりげなく促すなどして応えられていると思う。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や身だしなみ等には気を配っている。自己決定ができるように服は自分で選んでもらっている。季節に合わせた衣服の調整ができない人には職員と一緒に選んだり、助言など行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材で季節感を味わうなど、食事に対する関りを持たせる支援を行っている。誕生日では事前にリサーチを行い、希望のケーキや祝い膳を食事メニューに反映している。	食べることを楽しみにしてもらいたいと、介護部長が季節の食材を使った献立を作成している。大晦日は年越し蕎麦、元旦はおせち、誕生日はご本人の希望の焼うどん、赤飯、唐揚げなどの献立を其々のペースで完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は一日1600CCを目安に取り組んでおり、献立のバランスや摂取量の把握を通じて医者とも相談しながら支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた内容で口腔ケアを行っている。また、訪問歯科の連携により、一人ひとりの口腔状態が把握できるように取り組んでいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活支援の中でも重要な活動と捉えており、個々の排泄パターンに応じた声かけや誘導を積極的に行っている。	排泄が自立している入居者もあるが、個々の排泄パターンやサインに応じて、トイレでの排泄を支援している。夜間も声をかけてトイレに誘導している。リハビリパンツや尿取りパットの使用が多く、経済面にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分、食事の摂取で自然排便を促したり、医師と連携して便秘の予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のパターンは施設で決まっているが、状況に応じて日時を変更するなど柔軟に対応している。	お好みのシャンプー、リンスの持ち込みもあり、明るく広い個浴槽で週3回を目途に入浴を支援している。寒いからと入浴を億劫がる入居者には、順番を変えて浴室が暖まってから声をかけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて休息したり、夜間は安眠が確保できるように支援に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、症状の把握ができるよう薬手帳や内服説明書を確認し、服薬の管理・介助を行っている。薬の変更や利用者の変化等は都度報告をし、医師との連携により、適切な支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格や能力などに合わせた支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と相談しながら行きたい場所への支援を行っている。外気浴を兼ねた散歩や飼犬との散歩が運動療法になっている利用者もいる。	年末に入居者や家族の希望でいきつけの美容院でパーマをかけた入居者もあるが、受診以外の外出は控えている。広い敷地内の散歩や外気浴が日課となり、気分転換にもなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭を所持することはほとんどないが、施設の買い物に出かけたときは支払いは利用者をお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力のもとできる限り支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るようにホールには月ごとに異なるテーマ装飾が掲示されたり、廊下壁面には作品や写真が掲示されている。ご家族来訪の際は近況の報告もかねて写真をお見せしている。	玄関はスロープや雨よけのガレージが設置され、ホーム中央の居間の大きな窓から季節折々の周囲の山々が展望できる。空調が管理された広く明るい居間は食事やレクリエーションの場となり、隣の厨房からは食事作りの音や美味しそうな匂いが漂い、入居者は其々の場所で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が各自思い思いに過ごせるよう工夫を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の工夫はご家族とともに行っている。馴染みあるものを活用して落ち着く雰囲気を出せるように工夫している。各居室の入り口には居室間違いを防ぐため、大きく利用者名が掲示されている。	各居室入口に大きく記名された表札が掲示されている。職員手作りのイラストやお気に入りのアイドルグループの大きなポスターが掲示された居室もあり、日用品が整理され、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと、利用者のできることを生かした自立主体の支援を行っている。		